

## 授業実践報告書

# 総合的な学習の時間「はじめての探究学習」の実践 —自らテーマを見つけ、多様な図書館資料を味方に自ら学ぶ—

総合的な学習の時間「はじめての探究学習」（愛称「はじたん」）の実践は、清教学園中学校の1年生が入学してはじめて挑む探究学習である。「自身の興味関心からテーマを見つけ、図書館資料を読み、必要な情報を取捨選択し、読者を想定してまとめる経験」、それがこの実践の目的である。ちなみに、中学3年間にわたる「総合的な学習の時間」において、その掉尾を飾る卒業論文「なんでやねん」（詳細は〔添付資料⑤⑥⑦〕参照のこと）の、はじめの一歩としてこの単元は位置づけられている。

本単元の作品を完成させる道のりを通じて、様々な情報活用能力育成の場面が生まれる。具体的には、図書館での検索・探索、図書の吟味、情報の取捨選択、著作権への理解、引用と出典明記、事実と意見の区別、読者を想定したまとめ方、相互評価等である。見方を変えれば、こうした諸力の育成は思考力・判断力・表現力の育成である。

また、完成した作品は Google classroom にアップロード・アーカイブされるとともに、図書館の蔵書となり、次代に向けた資料となる。学校図書館の多様な資料の活用と、生徒自身による図書館資料の充実もこの実践のねらいである。

### 【授業単元の概略】

総合的な学習の時間「はじめての探究学習」（愛称「はじたん」）

- ・対象：中学1年生4クラス（150名）
- ・実施時期：2022年5月23日～6月27日 各クラス7時間
- ・授業者：司書教諭と司書のチームティーチングで実施

### (1)指導計画

学習指導要領の「総合的な学習の時間」（以下「総合学習」）の目標には以下のような記述がある。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

### ①単元・題材設定のねらいと理由

本単元では上記の目標を踏まえて以下のような単元のねらいを設定した。(1)(2)(3)は対応する学習指導要領の項目を示す。

- ・自身の興味や関心を探す…(1)(2)

- ・自分の関心に応じて探究的に読む習慣をつくる…(1)(2)
- ・資料を探し、読み、その中から必要な情報をピックアップできる…(2)
- ・読者を想定し、調べたことを人に伝わるようにまとめる…(2)(3)
- ・著作権についての意識を持ち、自分の意見と人のことば（引用）を分けて書く…(2)
- ・作品を相互評価し、それぞれの興味関心の多様性を知る…(1)(3)
- ・作品をアーカイブし、自身の学習の記録とするとともに図書館の蔵書として次代の学習に貢献する…(3)

本単元を設定した理由を述べる。まず、本校における総合学習の目的は自ら課題を見付け自ら学ぶ過程にある。学習指導要領がその目標で「総合的な学習を行うことを通して」（傍点筆者）と記しているように、そうした過程が主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や創造する力を育て、自らの「賜物を生かす」（本校のスクールモットー）機会を生み出すからである。探究的な学習の基本・前提は、幅広く楽しく本を読む習慣、論理的に書く習慣の獲得にある。したがって、本校ではこの授業を通じて、一貫して多様に読み書く機会を設定している〔添付資料⑤⑥⑦〕。

さて、中学1年生は入学後、図書館の仕組みと使い方を学び、様々な本と出合う「おためし読書」を例年経験する。そこで培った読書習慣の発展として、興味関心にもとづいて読書し、作品づくりや創作に挑む経験として、画用紙一枚にまとめる調べる学習を設定した。それが「はじめての探究学習」である。とはいえ、ただ調べたことを写してまとめるだけではなく、読者の存在を意識させ、モチベーション向上を図った。すなわち、「これは知らないともったいない！」「こんなにおもしろい話（ネタ）がある」など、読者が思わず「へえ～」と言う内容を目指す、というコンセプトである。完成した作品は学園祭で展示し、先輩の作品として後輩に読まれ、将来的には近いテーマの作品同士で合本され、図書館の蔵書にもなる。

## ②生徒の実態

入学試験を経て入学してくる生徒たちである。小学校低学年から通塾し、勉強に多くの時間を費やしてきた生徒も多い。本校入学後は部活動や友だち付き合いなど、比較的のびのび過ごしているように見える。同時に、自分の志向や趣味が明確にある個性的な生徒も多い。

総合的な学習の時間では、前述したようにフィクション、ノンフィクション多数の本と出合う機会を持つ（「おためし読書」）。読書好きな生徒・嫌いな生徒、好みのはっきりした生徒・好みすらわからない生徒と、読書への認識や自己確立の度合いは様々であるが、課題に前向きに取り組む素直な生徒が多い。また、男女を問わず仲が良いのも本校生徒の特徴と言える。

## ③単元・題材全体の指導計画【全7時間】

指導計画を下表にまとめた。生徒の様子を見ながら、必要事項はその都度説明した。各時間の授業で使用したプリントは〔添付資料①〕を参照のこと。

時	活動・内容	使用教材
1	1. 先輩の作品紹介 2. 自分は何を調べるか考える 3. 図書館に本を探しに行く → 1テーマ2冊以上借りる 4. ふせん紙を貼りながら本を読む 5. 「はじたん」企画書 記入 → 次回提出	授業プリント1
2	1. 自分が扱うテーマの「定義」を知る→ 百科事典で調べる 2. 「定義カード」を作る→ 必要な箇所を抜き出す 3. 自分が扱うテーマの範囲を考える 4. 「はじめての探究学習」企画書 提出	授業プリント2
3	1. 「はじたん」の提出要件の解説 2. 「情報カード」の書き方確認 3. 自分の意見をしゃべらせる「アバター」を作成する 4. 各自作業（読書／カードを作る／画用紙にまとめる）	授業プリント3・4
4	1. 奥付・責任表示 配布 2. 文献表示の確認（「調べたことカード」・画像や表の使用時） 3. 各自作業 4. 「アバターのアイデア」提出	
5	1. 各自作業 2. 「はじたん」提出	
6	1. 「はじたん」相互評価 2. 手直し 3. 「はじたん」最終提出	授業プリント5
7	1. 「はじたん」をiPadで撮影し、classroomにアップロードする 2. 振り返りアンケート	

#### ④学校司書との事前打ち合わせ

この単元に入る以前に行った、学校司書3名との連携のための事前打ち合わせについて述べる。本単元を実施するにあたり、図書館で本を探す場面と、百科事典を使う場面でのサポートを学校司書に依頼した。

タイトルに自分の知りたいことが書かれていないと、「本がない」という生徒は多い。そこで、フロアワークでは困っていきそうな生徒に声をかける。また、何を調べるか決めかねている生徒とも本棚を見て回り本を手渡す。さらには、百科事典の演習でも必要な項目を探せない生徒が多いため学校司書が随時1～2名支援に入った。

#### ⑤資料・情報の選択・収集など

インターネットの情報は、正しいかどうかの判断がその場で難しい。また、複数の図書を手に取って読み込み、関心のある分野の知識を広く異なる視点から学んでほしい。そこで、今回使用する資料は図書のみとした。適当な資料が見つからないときは、教員や学校司書に相談する。

基礎的な用語の定義は、百科事典や国語辞典、『現代用語の基礎知識』などから引用した。また、記述内容を比較検討するため、事典類と合わせて3冊以上の本を用いるよう指導した。

**(2)実践記録****①指導のポイント（授業における資料・情報の利用、指導の工夫など）**

本校の総合的な学習の時間では、生徒の「賜物を生かす」を目標とし、「何を学ぶか、どう学ぶか、なぜ学ぶか」を問い続ける。初めての探究学習となる本単元でも、生徒が自分の好きなものを好きと言えるよう、教室内の自由な雰囲気づくりに注力した。そして、作品づくりを通して、自分とはどのような人間なのか、なにが好きで、どういったことをおもしろがるのかを問う機会を目指した。

また、本校の総合的な学習の時間では、中学3年時に1万字を超える卒業論文の課題がある〔添付資料⑤〕。これに至る前段として、「はじたん」もそのトレーニングの一端を担っている。事実と意見の区別、読者にわかりやすい記述、3冊以上の参考資料とその出典の明記、といった指導がそうである。いきなり論文を書くのは難しいため、まずは画用紙一枚から探究学習を進めるのである。

具体的な指導例として、読書の際に付箋紙の利用を推奨した。図書館の本は書き込みができない。読書しながらの思い付きを散逸させないために、また心が動かされた箇所を見失わないように、付箋紙を貼り、必要であればそこにメモを取るよう指導した。また、要約してまとめるのではなく、①必要な箇所は抜き書きし、出典を明記して引用する〔添付資料①授業プリント2〕、②自分の意見やコメントはオリジナルのAvatarに言わせる〔添付資料①授業プリント3・4〕、という手法を徹底した。

**②生徒のテーマと作品**

このような実践のもと、実際の生徒たちの取り組んだテーマを一部紹介する〔詳しくは添付資料③参照〕。「ウクライナとロシアの関係について考えよう!」「欠史八代」「英国の名探偵にせまる!」「BTSはなぜ世界を夢中にさせるのか」「動物の恋」「幸せをわけて、もらって:愛鳥に幸せに長生きさせてあげる方法」「幽霊研究発表会 妖怪もあるよ!」「大阪のたこ焼きの歴史」「サルとヒト」「夢と魔法が叶う場所、東京ディズニーリゾートを満喫しよう!」などである。時事問題を取り上げる生徒もいれば、家で飼っているペットの鳥や大好きなBTS、以前から興味を持っていた動物の恋愛事情、大阪人にとって身近なたこ焼きを調べる生徒など、生徒の興味関心は多岐にわたる。実際の生徒作品は〔添付資料②〕を参照のこと。

**(3)実践の結果:アンケートの分析****①資料・情報の活用、児童生徒の変容、教員の自己評価など**

## 1. 資料・情報を活用できたか

この授業において、生徒は資料を活用できたのか。単元実施期間(5/23~6/27)に、中1生がどれくらい「はじたん」に関わる本を借りたのかを集計した。総計1325冊のうち、物語の本を除く貸出冊数は1002冊であった。一人当たり6.7冊の貸出である。「はじたん」は生徒にとって様々な本を手に取り、情報を読み取る機会になったと言える。

## 2. 生徒はどのように「はじたん」に取り組んだか(グラフ6)

授業後、生徒にアンケートを実施した〔添付資料④〕。以下、その結果を一部参照しながら、生徒がどのように取り組んだのかを検証したい。なお、生徒の自由記述は生徒の文章のまま手を加えず引用する。

テーマ設定の動機付けについての質問では（以下グラフ「6. 『はじたん』のテーマ決めについて」）、「自分の好きからテーマを選べた」生徒が一番多く、63名（42.3%）、次に「興味のあるテーマを見定められた」が44名（29.5%）となり、生徒のほとんどが自分の興味関心に素直にテーマを設定できたことがわかる。一方で、「テーマ設定に苦しんだ」「自分の興味のあるテーマに取り組むことができなかった」を選んだ生徒もそれぞれ5名いた。

6. 「はじたん」のテーマ決めについて、おおよそあてはまるものを1つ選択肢から選びます。  
149件の回答

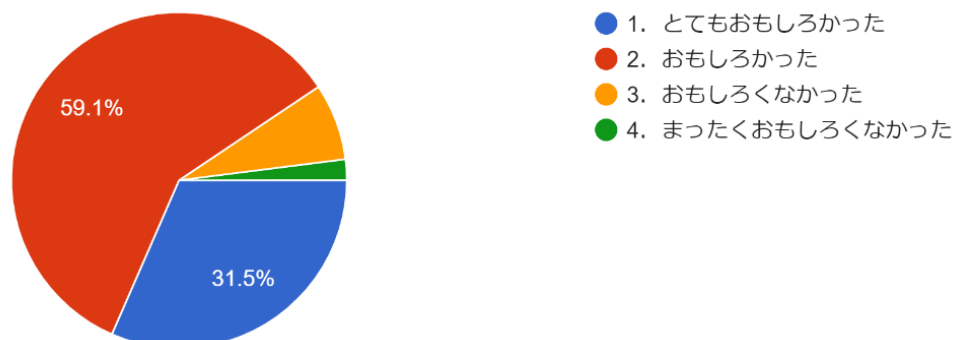


3. 生徒はどのような点におもしろさ・難しさを感じたのか（グラフ9・10）

グラフ9. 「『はじたん』の制作はおもしろかったと思うか」では肯定的な回答が9割を占めた。一方で、11名（7.4%）が「おもしろくなかった」、3名（2%）が「まったくおもしろくなかった」と回答した。彼らの「なぜおもしろくなかったか」についての自由記述を見てみると、「私があまり人に何かを伝えるということがあまり得意ではないのと引用ということを書いてある文章をそのまま使わなければならずこう書きたいというのが書けなくてかなり工夫して書かなければならなかったから」「アバターに何を言わせるかや専門的すぎずまとめられていてわかりやすい資料を見つけるのに苦労した」等、おもしろがる以前に難しさが先行してしまったようである。

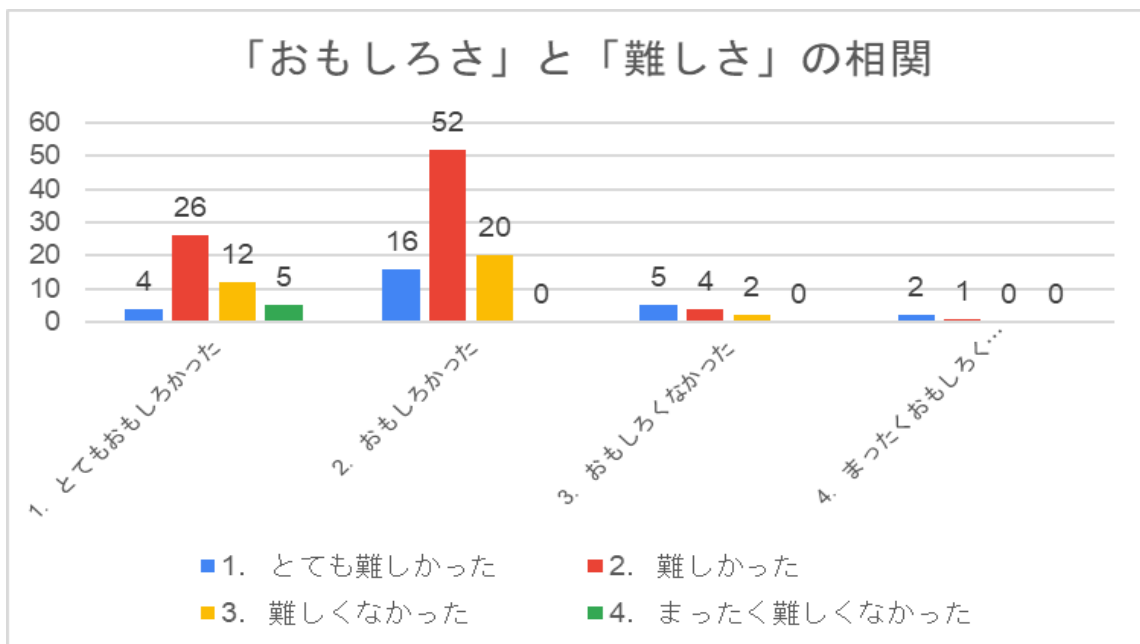
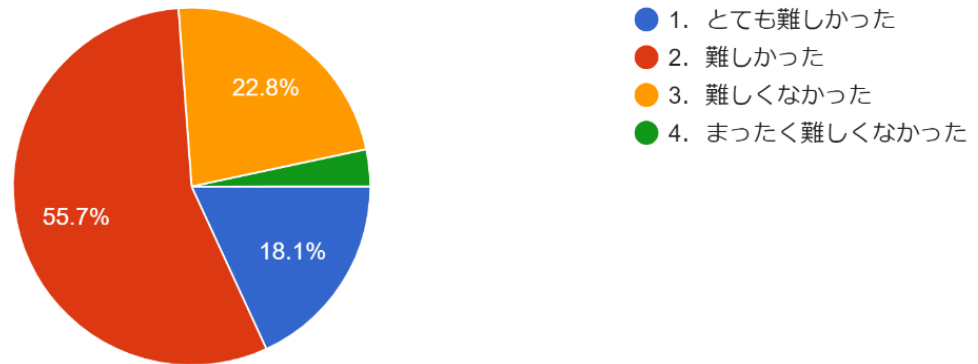
次に、難しさを問うた設問（グラフ「10. 『はじたん』の制作は難しかったと思うか」）では4分の3にあたる100名の生徒が難しかったと回答している。以下に「おもしろさ」と「難しさ」の相関を示すグラフを示す。結果として「おもしろく」かつ「難しい」と感じた生徒が多数を占めていることが明らかになった。

9. 「はじたん」の制作はおもしろかったと思いますか。  
149件の回答



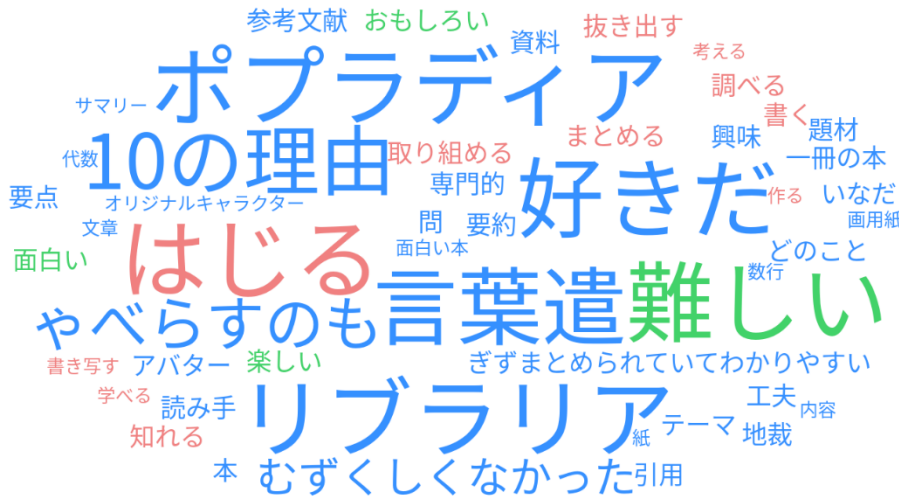
10. 「はじたん」の制作は難しかったですか。

149件の回答



では、生徒はどのような点に「おもしろさ」「難しさ」を感じたのだろうか。自由記述において、「絵を描くことや、貼り付け、デザインや要点まとめが楽しかったです。自分の好きなものについて調べているから、より楽しかったです。要点をまとめたカードの配置などが難しかったと思いました」「作品を作るために自分のキャラクターを作ったり、本の内容をまとめる事が出来なかったのが苦労しましたが、自分の興味がある事だったし、作品を可愛く作ろうとするのも楽しかったからです。」など、テーマ設定の重要性を示唆する記述や、読者を想定した際に、相手に伝える難しさを意識した記述が多く見られた。また、中には、「面白いことは、自分だけのはじたんをつくれたから。また、友達が見て驚いてくれたら、達成感があってもっと驚かしてやろうと工夫をして楽しかったから。難しかったことは、何を書こうか、迷ったこと。友達のはじたんをみたりアドバイスしてもらったり、してみたりするのが面白かった。友達の書き方を見たりするのが個人的に好きだった。」と読者があるから楽しめたと記述する生徒も多く見られた。

また、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://wordcloud.userlocal.jp/>) による



※画像内の「10の理由」は、9. おもしろさ、10. むずかしさそれぞれの理由を記述するよう求めたため、頻出したと考えられる。

「おもしろさ」「むずかしさ」についての自由記述の分析を行った。頻出した単語は「ポップラディア」「好きだ」「リブラリア（清教学園図書館の愛称）」「難しい」である。難しさを感じつつも、図書館を使って、好きなことにおもしろく取り組んだ生徒の姿が読み取れる。

#### 4. 後輩にすすめるか

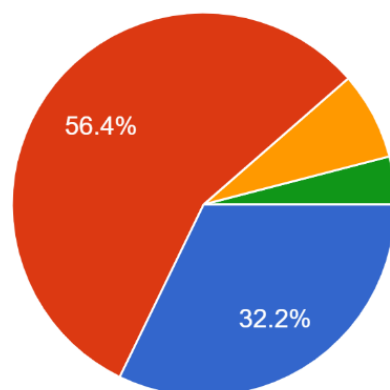
「後輩にすすめるか」という質問は、「はじたん」がどのような課題であるかを自分の取り組み方から一歩引いて、客観的に測る質問として設定した。肯定的な回答が128人、88.6%と約9割を占めた。

生徒の記述では、「私的にすごくいい勉強になったし、自分で調べたことってずっと頭に残るからめっちゃいいと思います。今までは自分の好きなことやから知ってるやろって思ってたけどいざ調べたら知らないこともだいぶ多かったので絶対やったほうがいいと思います。」「初めて探究してみている以上に難しかったり、どうすればいいかわからないものが結構多くて戸惑いながらもやってみると楽しくなってきてもっと知りたいと思ったから」「自分の好きなことや物、趣味について調べてくわしく知ることができるので、楽しいと思うからです。また、自分の好きなことがなくてもはじたんによって、好きなことを見つけれると思ったからです。」といったポジティブな意見が多かった。ここでも、難しいけれどもやってみようというおもしろくなる、というおもしろさと難しさの相関を示す記述がみられる。

一方で、「本で調べたりするのはあまり楽しくないし時間がなくなって勉強する時間や自由な時間がなくなるから」「作るのが大変」「難しいから」「絶対に勧めない。じゃないと後輩がかわいそうだし

### 12. 後輩に「はじたん」の制作をすすめますか。

149件の回答



- 1. とてもすすめる
- 2.すすめる
- 3. あまりすすめない
- 4. まったくすすめない

12. 後輩にすすめるか	人数
1. とてもすすめる	46
2.すすめる	82
3. あまりすすめない	12
4. まったくすすめない	6
無回答	3
総計	149

自分がされてやだったから、それにめんどくさいし部活にもっと熱中したい人とか、もっと違う勉強に励んだりしたい人もいるし、それどころじゃない人もいるかも知れないから」と少数ながらやらされ感を持って終わった生徒も見られた。

#### **(4)考察と今後の課題**

第一の考察として、学習におけるねらいと資料の関係について述べる。清教学園の学校図書館では2007年から生徒の多様な興味関心と読解力に見合った資料が組織されている〔添付資料⑤⑥参照〕。また、経験を積んだ学校司書による適宜のレファレンスも行われた。こうした条件のもと、生徒の資料情報の選択はスムーズかつ適正に行われた。実際に、期間中の貸出が6.7冊/人であり、3冊以上の参考文献がほぼすべての作品に記された。

第二の考察として、生徒の資料情報の利用の適切性について述べたい。生徒たちは学校司書の支援も受けつつ、定義を百科事典など確実な資料から引用できた。また、それぞれの関心に応じて本からの引用を行い、コメントを添えるよう努力した。その過程で、生徒がそれぞれに資料の適切性を判断し、情報の取捨選択、吟味を行った。その一方で、事実と意見の区別は中学生にとって難しいことも明らかになった。特に客観的な意見の記述は難しく、感想に終わる場合が多かった。加えて、引用箇所を探せなかったり、写す分量が多くなったりと、悩む姿が見受けられた。とはいえ、難しく悩んだからこそ、事実と意見の使い分けを意識する機会となり、オリジナルのアバターを含めて著作権についての認識は深まった。

第三の考察として、本単元の目的「自身の興味関心を探し、資料を読み、情報を取捨選択し、読者を想定してまとめる経験」に向けての指導について検討する。自身の興味関心に鑑み、自由にテーマを設定し調べてまとめる経験は、生徒の個性や多様性と相応した課題である。生徒は「おもしろさ」と「人に伝える」ことを原動力として、本を使って知識を深め、情報の取捨選択を可能とした。この「おもしろさ」には様々な要素がある。知識を深めるおもしろさ、情報をまとめるおもしろさ、ビジュアルに構成するおもしろさ、ものづくりのおもしろさなど、生徒それぞれの「おもしろさ」が認められた。また、作品に必要な要件を示し、相互評価をしたのちに、手直しの時間を取ったことが、自身の作品を客観的に評価することにもつながった。

生徒たちが自らの個性に応じた自身の世界を作り出す探究学習は重要だ。こうした経験が、中学3年生での卒業論文のテーマ設定という大仕事の足掛かりとなる。また、それとともに、論文執筆のための、「事実と意見の区別」や「引用と出典の記述」といった基礎的な情報活用能力が、難しさを伴いつつも楽しく培われた。とはいえ、生徒の毎日は忙しい。勉強・部活動・自分の時間と、しなければならないこと、したいことがたくさんある。そんな中で、どうすれば探究的な学びを自分事に引き寄せて取り組めるのか。その土壌となるのは、日常からの豊かな読書とそれに応じた多様な図書の提供、さらには学びに対する教師や生徒からのレスポンスである。活力を持って学んだ生徒はもちろん、「やらされ感」で終わった生徒の今後を、長い目で見守りたい。

最後に、多様な学校図書館の蔵書を生かすのは、この実践に見られるような生徒のイニシアチブを保障した探究学習であると強調したい。図書館はその蔵書の多様性で生徒の多様な興味を受け止め、学びを手助けする。それが本来的な姿だ。言い換えれば、「あなたは何を学びたいの?」という、問いかかけの機能がはじめから組み込まれた施設が学校図書館なのである。こうした機能を生かしつつ、人間性と創造性を備えた人として生徒たちには育ててほしい。そう願ってやまない。